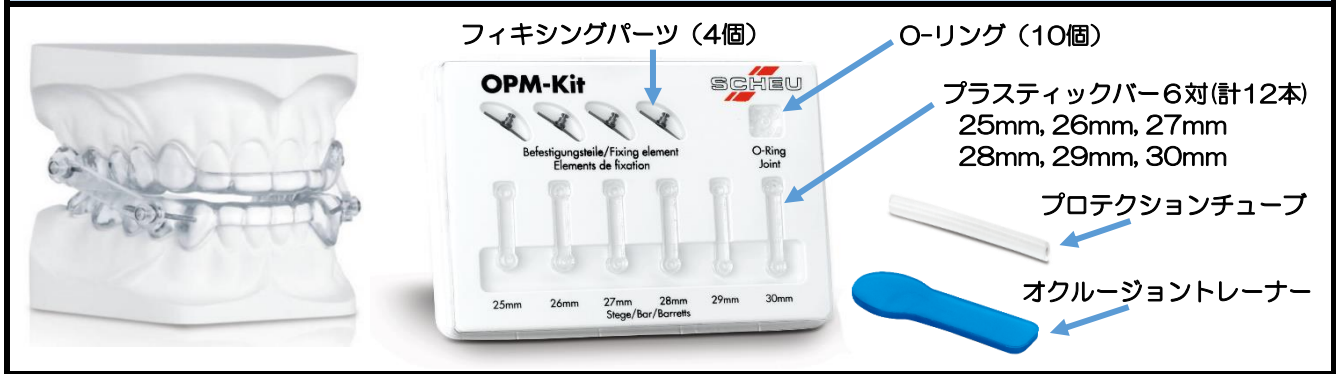
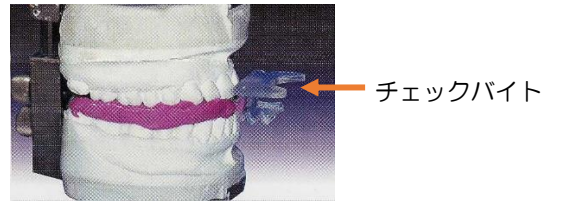


いびき防止装置 OPM 製作ガイド

Orthodontic Protrusion Mandibular appliance



1 ジョージゲージなどを使用して採得したバイトにより、模型を構成咬合器にセットします。いびき防止装置を作製する時の顎位は、最大前方移動量の60%程度を目安にすると良いと言われています。前歯部は呼吸ができるようにするために2~3mm程度開くようにしてください。



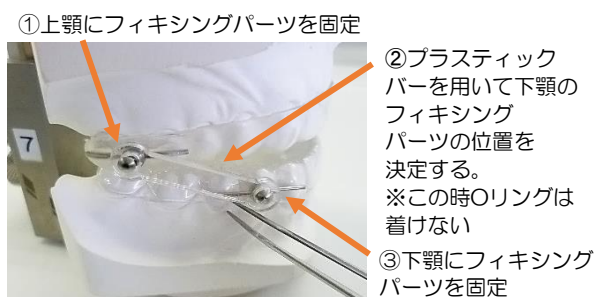
2 基底面をフラットにトリミングしたプレス用の複模型を作成します。スペーサーとして、イソフォランフィルムをバイオスター等の加圧形成器で通法により模型上にプレスします。基底面に沿って余剰部をトリミングした後、二次プレス時のエアの抜け道として歯間空隙部や凹面部に小さな穴または切り込みを数カ所入れます。



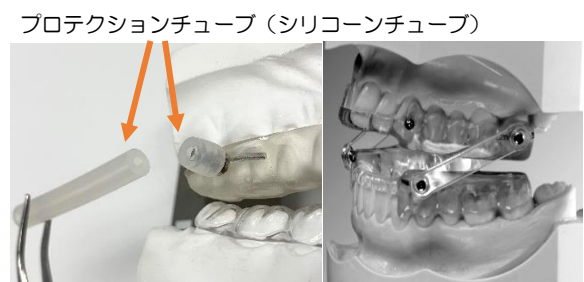
3 イソフォランフィルムを被せた模型を右図のようにステンスペレットに埋没します。その上にデュラン(2.0mm)を通法によりプレスし、余剰部をトリミングして上下顎スプリントを咬合器上の模型にセットします。※レジンを築盛すると重合収縮により変形する場合があるため、必要な辺縁の長さより長めに残しておき、辺縁のトリミングは最後に行うことをおすすめします。



4 フィキシングパーツの脚部を上下スプリントに沿わせるようにバンドをし、上顎用スプリントにバンドしたフィキシングパーツを即時重合レジンで任意の位置に仮固定します。次にプラスチックバーを用いて、下顎スプリント上にフィキシングパーツの位置を決め、即時重合レジンで仮固定します(この時O-リングはまだ着けません)。フィキシングパーツの平行性が取れていないとプラスチックバーが装着できませんので注意してください。※上顎は臼歯部、下顎は犬歯~小臼歯部が固定位置の目安になります。適切なプラスチックバーを選択してください。



5 プラスチックバーを一度外し、フィキシングパーツのヘッドに即時重合レジンが被らないよう、プロテクションチューブをカットしてフィキシングパーツに被せます。即時重合レジンで臼歯部の咬合面を平らに築盛し、咬合調整をして全体の研磨を行います。プラスチックバーをフィキシングパーツに取り付け、外れない様にO-リングで固定して完成です。



6 患者に装着後、経過診断で前方運動量が不足している場合はプラスチックバーの長さを変更し、再度咬合調整を行ってください。一時的な咬合のズレや、顎の筋肉が痛む場合があれば、オクルージョントレーナーをご使用ください。使用方法についてはホームページの製品情報をご覧ください。